

震災発生! どこに避難?



1. 震災で大火災!

広域火災発生! 消防車は来ない!

→身一つで広域避難場所

燃え広がる前に横浜商科大学へ!

- ・広域避難場所は火から身を守る避難場所です。設備はありません。
- ・火の及びにくい広い場所です。

2. 家にいられない!

→谷本中学校へ

震度5強以上で避難所(防災拠点)を開設します。

こんなときは中学校へ避難!

- ・倒壊など、家が危険/不安
- ・保護者が帰って来られない子供たち

- ・介助や支援の必要な人たち
 - ・梅が丘から帰れなくなった人たち
- 例: 東名で立ち往生→港北PAから梅が丘に避難

避難所に来るのは「家にいられないとき」です。

- ・最大限注意しても、避難所は自宅に比べて新型コロナなど感染リスクが高くなります。
- ・備蓄はわずかです。食料備蓄は、梅が丘住民の2割の人が、1回食事できる量しかありません。
- ・自宅で安全に過ごせる方には、在宅避難を強くお勧めします。

避難所は、避難したみんなで役割分担して運営します。

- ・市役所、区役所から支援がもらえるまで数日かかります。
- ・備蓄品の持ち寄りにもご協力ください。

地震でお母さんが帰れないときは避難所にいてね。

3. 家は大丈夫

→在宅避難

家が安全なら自宅がいちばん。

...そうはいつでも、不安があれば迷わず谷本中へ
家での避難生活に備えて防災備蓄!

感染防止の観点から在宅避難の重要性が高まっています!



備蓄しよう...水、トイレ、明かり、情報源...

水3日分 (1人9リットル以上)

トイレの準備(携帯トイレ、ビニール袋、新聞紙など)

懐中電灯・ラジオ・携帯電話の予備電源・電池

※今回防災訓練では避難や備蓄など「新型コロナ時代」の災害への備えを考えます。

